

「社美協へ期待すること」

新顧問 江面 嗣人先生「岡山理科大学 工学部建築学科 教授」



大学に移り6年目が終わろうとしています。文化庁にいた時から、文化財の修理技術者の保存と育成に大変関心がありました。が、大学に移ってからはなかなか皆さんのお手伝いができる機会がなく、今回、全文連

の後藤先生や色々な方との繋がりにより顧問にお声を掛けて頂き、大変光栄に思っております。最初の挨拶で、これからの社美協に対して意見をということなので、簡単に述べさせていただきます。

一つは、現代は自分達からの発信が求められる時代になっていくことを理解して頂きたいと思っています。今までは文化財保護の施策の枠組の中で大事にされてきた保存技術ですが、これからは大事なものは大事であると自ら悟った人が社会に訴えていかなければならないということです。社会に必要なものは必要と訴えていかなければ残らない時代となりつつあります。それができない所は、徐々に縮小していくことになりそうです。保存技術の必要性、保存会の必要性などを、皆さんの情熱とエネルギーをもって社会に発信していく必要があります。

もう一つは、論理性と規範性をもって、社会に説明していくことが求められるということです。何故、文化財保存が必要なのか。何のための文化財なのか。保存技術とはいかなる価値をもつのかなど、説得力のある説明が求められ

ます。文化財保存にお金がかかり、しっかりした代価を頂くには、技術の特殊性や必要性をしっかりと説明していくことが必要であり、これから保存会に要求されることと思

います。

社会に必要なことを説明するに当たって、中でも特に重要なものは、文化財は高度な精神性に支えられた「本物」であり、それを支える保存技術も高度な精神性を伴った「本物」であることを説明することです。その精神性をもって、精神性に立脚して仕事をしていくことが大事です。私が社美協に期待することは、「本物であれ」ということに尽きます。本物の仕事であり、本物の技術者集団であることを社会に示す必要があります。それは協会幹部のみならず、各社員1人1人にも求められることです。

また、現在、木造の修理技術は学問としても体系化されていきますが、社美協が関わる技術である建造物彩色や鍍金具などはそれができていません。他の研究機関との連携なども視野に入れて、1つの学問をつくる意識で学術的研究も行い、その成果を活かしつつ本物を追究してほしいと思います。

仕事をしていく上で経済観は不可欠なものです。それを表に出すのではなく、後からついてくるものという意識を持ち、文化財保存団体の中でも高い意識をもち、高度な技術をもつという自負を大切に、さらに技術を磨き、文化財保存技術の存在性を社会に示してほしいと期待します。「この文章は平成二十五年一月二十五日の理事会において、お話しいただいたことをまとめております。」

荒木会長より

平成24年度 社寺建造物美術協議会としては、諸々の問題点の解決策を見出す為に、体制の見直しをいたしました。4月総会において、社寺建造物美術協議会の原点に立ち返り技術練磨・継承の為には何から取り組むべきかの議論をいたしました。

その結果、私どもの生命線である技術向上を図るため技術向上プロジェクトチームを発足させることになりました。このプロジェクトチームは、理事以外の会員もメンバーとなり積極的な取り組みにしたいと思っております。プロジェクト会議では、各社個々では取り組めない大きな問題について取り組んでまいります。取り組む課題の候補としては素材に関する勉強会・文化財行政を知るための勉強会・最先端技術（科学分析等）の勉強会があげられました。その中から、来年度は、漆の経年劣化に関する調査・分析を漆関連各社が中心となって行く予定としております。

10月総会では、我々の進むべき道をリードしてくださる先生をお迎えする事になりました。総合的な社寺建造物美術協議会の道筋をつけていただく為には、行政経験豊かな江面嗣人先生をお迎えし、模型製作・技術顧問として塗装技術の権威 窪寺茂先生にお願い致しました。新しい体制の元、より一層意義のある協議会を目指してまいります。

新体制

会長 (理事)
副会長 (理事)
運営委員 (理事)

監事
顧問

荒木	かおり
澤野	道玄
森本	安之助
片山	富夫
齋藤	敏彦
田鹿	秀夫
新	デービッド・アトキンソン
新	俣野 健司 (会計)
新	江面 嗣人
新	窪寺 茂 (技術)
大谷	秀一
横山	義雄

会則の改訂

第10条 (入会)

本会の正会員になろうとする者は、文化財保存技術の施工実績があり、正会員及び文化財関係者の推薦を受けた上で、入会申請書を会長に提出し、理事会にて諮り、総会での承認を受けなければならない。(総会にて2名以上の正会員から異議があるときは、入会は認められない。)

←改訂

本会の正会員になろうとする者は、文化財保存技術の施工実績があり、正会員2名の推薦及び文化財関係者の意見を参考に、入会申請書を会長に提出し、理事会にて諮り、総会での承認を受けなければならない。(総会にて多数決で承認する。)

● 平成 24 年度 年間事業報告 ●

平成24年	活動 (●は国庫補助事業)	場 所
4月20日	第1回通常総会	於 京都府 新都ホテル
5月14日～5月18日	●建造物装飾模型製作研修―漆Ⅲ期―	於 静岡県 日本建築専門学校
5月19日	日本文化財漆協会 総会 出席	於 東京都 東京藝術大学
6月11日～6月15日	●建造物装飾模型製作研修―漆Ⅳ期―	於 静岡県 日本建築専門学校
6月13日	文化財修理技術保存連盟 理事会 出席	於 京都市文化財保存技術研修センター
7月2日～7月13日	●建造物装飾模型製作研修―漆Ⅴ、Ⅵ期―	於 静岡県 日本建築専門学校
7月24日	技術継承プロジェクトチーム会議	於 愛知県名古屋市 ウィングビル会議室
7月25日	京都府文化財所有者等連絡協議会 総会 出席	於 京都府 知恩院
8月1日	文化財修理技術保存連盟 理事会 出席	於 京都市文化財保存技術研修センター
8月20日～8月24日	●後継者養成実技研修	於 (株)片山、(株)さわの道玄、 (株)森本鋳金具製作所、(有)川面美術研究所
8月29日	文化財修理技術保存連盟 理事会 出席	於 京都市文化財保存技術研修センター
9月28日	第1回理事会	於 神奈川県 新横浜プリンスホテル会議室
10月13日～10月14日	文化財保存技術2012 ～文化財を支える「伝統の名匠」～ 展示	於 兵庫県 イーグレひめじ
10月13日	全国文化財保存技術連合会 総会 出席	於 兵庫県 姫路市国際交流センター
10月25日～10月26日	●建造物装飾修理用資材検討調査研修会 ●会員研修会	於 石川県 (株)今井金箔、(株)中村製箔所、 金沢市立安江金箔工芸館
10月26日	第2回通常総会	於 石川県 金沢勤労者プラザ会議室
11月3日～11月11日	ふるさと文化財の森 『文化財建造物保存活用公開セミナー』 展示	於 京都府、清水寺、 京都市文化財保存技術研修センター
11月12日～11月16日	●建造物装飾模型製作研修―彩色Ⅱ期―	於 京都市文化財保存技術研修センター
11月19日～11月30日	●建造物装飾模型製作研修―彩色Ⅲ、Ⅳ期―	於 (有)川面美術研究所
11月21日	京都府文化財所有者等連絡協議会研修会 参加	於 京都府 龍谷大学
平成25年		
1月25日	第2回理事会、技術継承プロジェクトチーム会議	於 京都府 T K P ガーデンシティ京都会議室

「後継者養成実技研修会」

期 間：平成 24 年 8 月 20 日～8 月 24 日

場 所：清水寺、毘沙門堂、二条城、(株)片山、(株)森本鋳金具製作所、(株)さわの道玄、(有)川面美術研究所

研修生：濱田麻希（京都伝統工芸大学校）、嶋田希望（京都伝統工芸大学校）



丹塗り



掻き落し



纏綯彩色 完成図



胡粉下地



薄色入れ

各種美術工芸教育機関と連携し、文化財建造物装飾に関心のある後継者を会員各事業所にて受け入れ、仕事の実感を体験してもらうことで、将来の後継者養成に繋げることを目的としています。今年度は、(株)片山にて丹塗模型の掻き落とし塗装を行い、(有)川面美術研究所にて平等院鳳凰堂の斗拱文様を参考に、斗の纏綯彩色を行いました。また、(株)さわの道玄にて漆塗りや箔貼り・彩色・剥落止めの作業場を、(株)森本鋳金具製作所では金具資料館や作業場をそれぞれ視察し、作業工程の説明を受けました。

また、清水寺で修復中の子安塔・朝倉堂の見学、毘沙門堂では塗装作業を見学させて頂き、二条城模写室では二の丸御殿の障壁画や襖絵の模写作業を見学させて頂きました。

「建造物装飾修理用資材検討調査研修会」・「会員研修会」

期 間：平成 24 年 10 月 25 日～10 月 26 日

場 所：(株)今井金箔、(株)中村製箔所、金沢市立安江金箔工芸館

研修生：大谷雄二郎（(株)大谷相模掾鑄造所）、片山富夫（(株)片山）、荒木かおり（(有)川面美術研究所）、楠本明希（(有)川面美術研究所）、古山敬典（(有)川面美術研究所）、齋藤敏彦（(有)齋藤漆工芸）澤野道玄（(株)さわの道玄）、高井みいる（(株)さわの道玄）、信正靖雄（(株)さわの道玄）、太田洋志（(財)塩尻木曾地域地場産業センター）、田鹿秀夫（(株)はせがわ美術工芸）、山本真梨（(株)はせがわ美術工芸）、邑田佳子（邑田漆芸(株)）、島津亮介（(有)島津漆工房）、佐藤太一（(公財)文化財建造物保存技術協会）、西澤正浩（(公財)文化財建造物保存技術協会）



箔打ち



引入れ作業

建造物装飾修理に欠かせない材料について部門ごとに講師を招き、その現状や問題点を検討する当研修は、今年度「金箔」に焦点を当て、石川県金沢市にて研修を行いました。金箔は伝統製法である縁付金箔製法の技術保存継承に向けた取り組みが盛んな町です。今回は(株)今井金箔、(株)中村製箔所にて金箔の縁付製造工程を見学させていただき、金沢市立安江金箔工芸館では金箔の歴史を解説頂きました。また、絵画技法における金箔の研究をされておられる吉備国際大学教授の馬場秀雄氏に時代金箔についてご講演いただきました。

吉備国際大学 文化財学部教授 馬場秀雄氏講演 「時代金箔について」

今年度の会員研修会では「金箔」に焦点を当て建造物修理用資材検討調査研究会と同時開催し、石川県金沢市にて研修を行いました。

馬場先生は金沢のご出身で、金箔製造を身近に育たれ、その後文化財修理を多く手掛けられておられます。今回は時代金箔について、特に国宝「紅白図屏風」(MOA美術館所蔵)に金箔が使用されているか否か?の問題について詳しくお話をいただいた。又、箔の製造工程の違いによる断切金箔と縁付金箔について、縁付金箔の生産の現状についてもお話しいただきました。

国宝「紅白図屏風」の科学調査では金の検出が微量だったことから、金箔は使用せず、光琳が箔足を描いて金箔風に仕上げたのではないかという見解がマスコミを通じ大々的に報じられました。この結果に疑問を持たれ、古代箔の再現を試みられ極限に近い薄い箔が江戸時代には造られていた事、その経年劣化により、斑、継ぎ重ね、繕いが現状では目立ってきているのではないかと、調査結果の金の検出量が非常に低い結果になっ



た事もこの為であろうというお話でした。現代の機械打ち箔より、江戸時代の手打ち箔のほうが薄く仕上がっていたというお話は驚きで、今までの概念を覆すものです。障壁画によく見られる、箔足や継ぎの多さ、目立ち加減はこの結果なのだと思われ、目からうろこのお話でした。銀箔の薄い箔を用いると紅白梅図で見られるような銀の妖変が起こる、といったお話を伺いました。

昭和40年台から、グリシン紙に化学薬品を塗った箔打ち紙が出現してから価格の安い断切金箔が多勢を占めるようになってきています。

縁付金箔は箔打ち紙を作る為には熟練と大きな労力を必要とし、出来る技術者が少なくなっています。

断切金箔はグリシン紙を合紙にするため、紙の繊維の型が箔に移らず、箔打ち機械による放射状の文様が残ります。光沢は強く力強い金色を呈します。

縁付金箔は合紙に使われている楮紙の繊維の型が箔に残り、紙すき時に混入した微細な砂などの異物によりピンホールが出来ます。このため金色は断切金箔に比べて柔らかな表情になります。

これらの特性を知り、使い分けをしたらいよいよ、しかし縁付金箔の技術は絶やさないよう縁付き箔の良さを知ってほしい。といった内容でした。第2日目の縁付金箔製造工程を見学する為には大変参考になる御講演でした。

「建造物装飾模型製作研修」

建造物装飾模型製作研修は、22年度から26年度の5年間をかけて、漆・彩色・丹塗・金具の4部門で1つの模型を完成させます。各部門の技術を集大成した模型製作を通し、技術者の技術の継承と練磨を目指すと共に、製作後には模型を展示することで、業界の社会の認知度の向上を目指します。今年度は漆部分が完成し、彩色に着手しました。



漆面

漆施工

期 間：平成24年6月11日～6月15日、7月2日～7月13日

場 所：日本建築専門学校（静岡県富士宮市）

研修生：李 尚娥（株さわの道玄）、近藤雅子（株さわの道玄）
齋藤和人（有齋藤漆工芸）、吉木光太（有齋藤漆工芸）
吉成光臣（有齋藤漆工芸）、吉田 晋（有齋藤漆工芸）



漆面、工程面（背面）

彩色施工

期 間：平成24年11月12日～11月16日、
11月19日～11月30日

場 所：京都市文化財建造物保存技術センター、(有)川面美術研究所

研修生：河喜多祐佳（株さわの道玄）、荒川明穂（有川面美術研究所）
福田寛子（有川面美術研究所）、藤尾佳代（有川面美術研究所）



平成24年度研修 終了時（正面・漆面）

文化財保存技術2012

「文化財を支える「伝統の名匠」」

期間…平成24年10月13日・14日
 場所…兵庫県姫路市イーグレひめじ
 内容…展示、金工技術体験コーナー
 担当…(株)小西美術工芸社



「伝統の名匠」展は、全国の保存技術団体が一堂に集結し、国内における文化財の修理や材料、道具などに関する現状を関係者、また一般の方々にも広く知っていただくという趣旨で毎年文化庁の主催で実施されています。平成24年度は2会場に分かれ、当協議会

は姫路城の南側に位置する大手前公園を会場に、協議会の解説、また金具を中心に据えた各部門の説明をパネルや手板、サンプルの展示で紹介しました。また体験コーナーでは金具の打ち直しをストラップヘッドづくりで体験いただきました。



ふるさと文化財の森

文化財建造物保存活用公開セミナー

期間…平成24年11月3日～11日
 場所…清水寺境内、京都市文化財建造物保存技術センター
 内容…展示、金箔押し・絵馬彩色の体験コーナー
 担当…(株)片山、(株)さわの道玄、(有)川面美術研究所、(株)はせがわ美術工芸



「文化財建造物保存活用公開セミナー」では、森林資材に関わる複数の選定保存技術団体が実演・体験・見学コーナーを設けています。当協議会は、文化財建造物保存技術センターでは、パネルによる解説や模型・手板、材料・道具を展示し、伝統的な建造物の装飾（丹塗、漆塗、彩色）の仕事を紹介し



ました。また清水寺境内では、繻綉彩色を施した手板・清水寺三重塔の文様例パネルを展示した他、体験コーナーを設け、第1日目は絵馬彩色、第2日目は金箔押しを一般参加者に体感していただき、文化財建造物装飾の仕事の一端を感じていただきました。

社寺建造物美術協議会 名簿

平成 25 年 3 月

No.	企業名	氏名	所在地	電話番号 FAX 番号
1	(株)大谷相模掾鋳造所	大谷哲秀 (大谷秀一)	537-0011 大阪市東成区東今里 2-6-20	06-6971-6571 06-6971-6511
2	(株) 片 山	片山富夫	601-8303 京都市南区吉祥院向田東町 10	075-322-1236 075-316-6333
3	(有)川面美術研究所	荒木かおり	616-8242 京都市右京区鳴滝本町 69-2	075-464-0725 075-464-0099
4	岸野美術漆工業(株)	岸野 勲	321-1404 栃木県日光市御幸町 587-2	0288-53-3366 0288-54-0072
5	(株)小西美術工藝社	デービッド・アトキンソン	108-0014 東京都港区芝 4-4-5 三田KMビル 3 階	03-5765-1481 03-3455-9250
6	(有)齋藤漆工藝	齋藤敏彦	250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 1285-381	0460-84-2802 0460-84-0770
7	(株) さ か い	酒井清裕	520-2331 滋賀県野洲市小篠原 7-1	0775-87-1178 0775-87-5355
8	(株) さ わ の 道 玄	澤野道玄	604-8232 京都市中京区錦小路通油小路東入る空也町 491	075-254-3885 075-254-3886
9	(財)塩尻木曾地域 地場産業センター	小口利幸	399-6302 長野県塩尻市木曾平沢 2272-7	0264-34-3888 0264-34-2832
10	(株)はせがわ美術工藝	井上貫治 (田鹿秀夫)	822-0011 福岡県直方市大字中泉今林 885-26	0949-24-7211 0949-24-7221
11	(株)細川社寺巧藝社	細川夫美子	651-2242 兵庫県神戸市西区井吹台東町 1-5-13-301	078-997-7178 078-997-7179
12	邑 田 漆 芸 (株)	邑田正廣	607-8355 京都市山科区西野大鳥井町 118-45	075-591-4137 075-502-0638
13	(株)森本鋳金具製作所	森本安之助	600-8321 京都市下京区楊梅通西洞院東入る八百屋町 59	075-351-3772 075-361-8877
14	(有)横山金具工房	横山智明 (横山義雄)	601-8394 京都市南区吉祥院中河原里北町 14-3	075-325-4861 075-325-4862

平成 25 年度社寺建造物装飾技術者研修事業計画 (国庫補助事業)

伝承者の養成

1、建造物装飾修理用資材検討調査研修会

◇研修期間 平成 25 年 10 月 (予定)

◇研修内容 中級・上級技術者を対象とし、漆や膠、地金などの建造物装飾修理に欠かせない材料について、各部門ごとに講師を招き、その現状や問題点を検討し、改善策を立て、今後の修理に生かす。

2、会員研修会

◇研修期間 平成 25 年 10 月 24 日～10 月 25 日 (予定)

◇研修内容 古社寺を訪ね、伝統建造物に於ける装飾分野の研鑽を深め、日本文化への更なる広い視野を持った人材を養成する。

3、後継者養成実技研修会

◇研修期間 平成 25 年 8 月 (4 日～10 日間程度で実施)

◇研修内容 各種美術工藝教育機関と連携し、文化財建造物装飾に関心のある後継者を会員各事業所にて受け入れ、仕事の実験を体験してもらうことで、将来の後継者養成に繋げる。

技術技能の練磨

4、固有技術向上研修会

○建造物装飾模型製作研修

◇研修期間 <彩色研修> 平成 25 年 9 月～11 月 (予定)

◇研修内容 伝統建造物の模型を作成し、漆・彩色・金工・単色塗、各部門の装飾施工を行う。各部門、一つの模型を作成することで、技術者の技術・技能の練磨を目指すと同時に、研修生が原因から製作し、建造物装飾技術の研究を行う。製作後の模型は展示会や公共施設等で展示し、建造物装飾の技術や文化建造物保存への理解を広く世に伝える。

記録の作成及び刊行

報告書と会報による研修事業の成果報告を行う。また、建造物装飾模型製作研修の実技研修開始にあたり、装飾技術の会員間での情報共有と伝播・継承を目的とし研修内容を映像記録に残す。

社寺建造物美術協議会

本部事務局

〒616-8242

京都市右京区鳴滝本町69-2 (有)川面美術研究所内

Tel:075-464-0725 Fax:075-464-0099

編集
後記

今年度も皆様のご協力のおかげで、予定通り各事業を実施することができました。

■400年以上の歴史を持つ金沢市の金箔製造の見学・研修は、技術伝承についても学びました。

■模型製作は、「漆塗り」から「彩色」へと順調に研修を続けています。■又、技術継承をテーマに後継者養成、素材についての現状の課題等会員相互で活発な討議をした一年でした。

これからもご協力をよろしくお願いいたします。

(Y)